

茨木高校野球部

OB会報

発行

大阪府立茨木高校

野球部OB会

甘く酸っぱい思い出の記

高校16回 安岡 雅人



二年生の春に、「野球をしよう」と稲坂君に誘われて野球生活が始まりました。

相撲が強かったので、柔道が向いていると思っていたのですが、体育の時間にバレー部の伊勢君に、何度も投げられ諦めました。どの道へたくそならば、好きな方がましです。

二年の夏の大会は、久しぶりの二回戦進出を果たしました。立役者は、ピッチャー稲坂、キャッチャー、キャップテン谷本先輩、華

麗な守備の田中先輩の面々です。

大会終了後、先輩から稲坂がキャップテンに指名されました。その後、ドラマが始まりました。セカンドで、ポテンピッターの清水君が、俺がキャップテンをするつもりだった、と言い出しました。す

ったもんだの末、両名が退部してしまいました。その後、キャップテンを引き継いだのですが、同じく島君がキャップテンをしようと云うことで、選挙をしました。投票結果を尊重し、島君と交代しました。法律用語で云う Due Process (正当手順) でした。

このトラブルの発生前に、清水君が言い出しついで、女性マネージャーをスカウトしました。小西、古賀の両名で、茨木高校野球部初代女子マネージャーが誕生しました。

キャップテンを交代する前、機械課の連中が福留先生を野球部の部長にと言いついて、学校サイドに

お願いし、快諾をえました。今から思えば、その時交代された大西先生には随分失礼な事をしたなど、反省しきりです。若気の至りで許して貰えるでしょうか？

二年の秋、冬季練習を早く始めました。何とか強くなりたいとの思いからです。でも、これが他のメンバーからは反発をかいまして。エース稲坂を失って、強肩の丸田君を何とかエースにとコーチの役も買って出しました。ランニング、シャドウピッチング等、基本的なことが中心でした。

いよいよ夏の大会を迎え、2対0の先制をアット云う間にひっくり返され、短い勝利の予感ほ消え去りました。寝屋川の松下球場から、丸田君と二人とぼとぼと、皆に遅れて帰りました。

卒業後何年かたって、春日丘高校が甲子園に出場し、二回戦まで行ったのには、驚き感激しました。我が茨木高校も何時の日か甲子園にとの思いがその時から続いています。

今年一月のOB会で、吉川先輩が、せめて準決勝までは、とおっしゃられました。目指すは甲子園！との檄と飛ばすべく、本稿の執筆を志願しました。悪しからずご了承ください。

監督より

高21回 池永 徹



新緑の候、OBの皆様におかれましては益々ご健勝のことと存じます。

今春卒業した59期生のチームはなかなか勝てず苦しみましたが、最後の夏に1勝を上げることができました。思い残すことなく引退していつてくれたので、うれしく思っています。新チームは、夏のバッテリーが残っていたこともあり最初は好調で、秋季大会でも2勝しました。でもその後、伸び悩んでいます。

野球部卒業生の進学状況は、好調だった昨年よりもさらに良い結果でした。別表をご覧ください。また、元気な1年生が16+1名入部しました。入部者が多いのは、進学状況が好調なのと密接な関係があると判断しています。これから文武両道の実現を目指していきます。

す。3年生は入部以来退部した者がいませんが、2年生はこの1年間に3名退部しました。非常に残念に思います。1年生は入部した者全員が、最後まで活動してくれるよう指導していきたいと思っています。

私にとっても、野球部にとっても、強力な助っ人が現れました。お二人とも大学を卒業したばかりの若い先生で、どんどんノックをしてもらえます。講師の先生です。この1年間は野球部を指導していただけるので心強い限りです。

春休みにはエースが股関節痛で思うように練習できず、イライラしていました。チームとしても本意な試合が続き、春季大会も惨敗に終わりました。春季大会終了後、やっとエースが力一杯練習できるようになり、それとともにチーム力も整ってきました。夏にこそ期待下さい。

